

若狭高校の生徒が松本文科大臣と懇談

「宇宙食サバ缶」の取組・専門高校の魅力アピール

文部科学省がタイアップし放送されたテレビドラマ「サバ缶、宇宙へ行く」。このモデルとなった福井県立若狭高校海洋科学科3年の生徒4名が6月19日、松本洋平文部科学大臣と懇談し、「宇宙食サバ缶」の取組や専門高校の魅力について紹介した。



「宇宙食サバ缶」を手に写真におさまる松本大臣(中央)と生徒ら

同校のサバ缶開発は実習として実施されたもの。2018年には宇宙航空研究開発機構(JAXA)の「宇宙食」に採用され、国際宇宙ステーション(ISS)にも搭載された。懇談では、「宇宙食サバ缶」開発までの苦労や「宇宙食」として採用してもらったための工夫についてクイズ形式で紹介された。松本大臣は生徒らが製造した「宇宙食サバ缶」を試食し、「味がしみ込んでいておいしい」と笑顔ではおぼっていた。加えて、「海洋プラでもある「探究学習」に関して、「海洋プラスチックの再利用」や「アマモ場の保全・再生」等、生徒がそれぞれが取り組んでいるテーマについて発表が行われ、松本大臣は「皆さんが問題意識をもって、自分自身のことも考えながら、学校でいろんな意義を見出し自ら勉強していることがよくわかった」と称賛した。



生徒の発表に耳を傾ける松本大臣

生徒らは懇談後、取材に応じ、「これからも自分たちのためにだけではなく、実際に宇宙で食べられる方のためにも先輩たちから引き継ぎ、次の世代に引き継げるように活動していきたい」と述べた。